

そうなら ぼくは あんしんして 山を はな
れて いくことが できます。

なぜ そうするのか。ぼくと きみとが 行っ
たり きたりしては、村の人たちが きみわ
るく 思うに ちがいありません。

そうなのは、せっかく 力を かしてあげた
のに むだになってしまう。そう考えて ぼくは
いまから たびに できることにしました。

ながい ながい たびに なるかもしれません。
けれども ぼくは、いつでも きみを 思って
いましょう。

いつか どこかで また きっと あえること
でしょう。 さようなら

きみ からだを だいに してください。

どこまでも きみの友だち 青おに」

「ああ 青くん。」

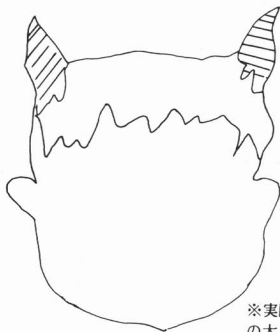
赤おには 二ども三ども だまって よみかえ
しました。

そして、つめたい いわのとなに かおを おし
つけて、ただ はらはらと なみだをながして
なきつづけました。

(歌)

赤いおには 大すきだ 青いおには 大きらい
赤いおにが きたら おにごっこで
あそぼう
青いおにが きたら はりで 目んたま
つつつ
はりで 目んたま つつつ
はりで 目んたま つつつ
はりで 目んたま つつつ

(原作) はまだ ひろすけ



※実際は、B5判
の大きさである。

(3) 授業の実際

児童とは初対面であったため、休み時間を利用
して3分間ほど会話を交わした。

私の自己紹介、写真撮影時の注意、学級の人数、
欠席者数などについてである。

— 授業開始のチャイム —

T. 「では、始めましょう。この学級の友達は、
休んでいる人も含めると41人だということど
すが、みなさんは、仲のよい友達が何人位い
ますか。」

C. 一瞬静まり返った後。

「大勢」「8人」「20人」「数え切れない」

T. 「大勢とか、数え切れないという人が多いよ
うですが…。」

C. 「数え切れない」「沢山いる」

T. 「それでは、この学級だけでなく、ほかの学
級や、6年生、5年生というように、友達が
大勢いるということですね。」

C. 「はい。そうです」

T. 「友達に親切にしてもらったり、自分の親切
にしてあげたりしたことはありませんか。」

C. 「ある」「あります」20人位が挙手。

C. 「きのう、Yちゃんが転んだので助けてあげ
ました。」

C. Tの拍手を聞き、全員が拍手。

